

当院蓄積症例による IBM と HTLV-1 感染との関連についての研究

研究協力者：樋口逸郎¹⁾

共同研究者：橋口昭大²⁾ 野妻智嗣²⁾ 松浦英治²⁾ 高嶋博²⁾

1) 鹿児島大学医学部保健学科理学療法学専攻 基礎理学療法学講座

2) 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 神経内科・老年病学

A：研究目的

鹿児島県は一般 HTLV-1 感染率が約 2% と全国で最も高い。当科における PM, DM, IBM において HTLV-1 感染と臨床像及び治療効果との関連を明らかにする。

B：研究方法

2004 年から 2014 年の間に鹿児島大学神経内科で精査され、臨床的、電気生理学的、筋組織学的に IBM, PM, DM と診断された 89 例について retrospective に HTLV-1 感染の有無で分けて比較検討した。

（倫理面への配慮）

筋生検を施行する際に、全例文書による同意・署名を取得した。同時に筋疾患における研究に検体を利用することに文書で同意・署名を得ている。

C：研究結果

診断された 89 例の内訳は、IBM 23 例、PM 26 例、DM 40 例であった。それぞれの HTLV-1 感染率は IBM 27.3%, PM 20.8%, DM 21.1% と一般陽性率の 10 倍以上高かった。HTLV-1 陽性 IBM 患者の平均発症年齢は 69.2 歳、陰

性 IBM の平均発症年齢は 65.1 歳と有意差は認められなかった。HTLV-1 陽性 IBM の発症から診断までに要した期間は平均 28.3 ヶ月で、陰性 IBM の 45.6 ヶ月と比較すると短かったが有意差はつかなかった。ステロイド治療の反応性は HTLV-1 感染の有無による違いは認められなかった。

D：考察

HTLV-1 陽性 IBM 患者の筋内膜には HTLV-1 特異的細胞傷害性 T リンパ球が浸潤しており、HTLV-1 陽性 IBM 患者の進行経過が陰性 IBM 患者の経過よりも速い傾向があり、HTLV-1 感染が病因に直接関与している可能性が残る。IBM のみならず PM, DM においても HTLV-1 感染率は高く、その炎症機序に HTLV-1 ウイルス感染が関与している可能性も示唆された。

E：結論

IBM を含む炎症性筋疾患において HTLV-1 感染率は一般人口感染率の 10 倍以上であった。HTLV-1 陽性 IBM は HTLV-1 陰性 IBM より発症から確定診断に至るまでの期間が短い傾

向があった。HTLV-1 感染の有無に関係なく
IBM のステロイド治療効果は乏しかった。

F：健康危険情報

なし

G：研究発表

1：論文発表

なし

2：学会発表

なし

H：知的所有権の取得状況（予定を含む）

1：特許取得

なし

2：実用新案登録

なし

3：その他